

日本動物園水族館協会が実施している飼育技師資格認定試験について

公益社団法人日本動物園水族館協会（以下、日動水）は、飼育技術者の資質と飼育技術の向上および動物園水族館の発展に貢献することを目的に、飼育技師資格認定試験を実施しています。飼育技師資格認定基準が定められたのは1971年5月の日動水総会においてです。現在までに半世紀近くの歴史を持っています。第1回資格認定試験は翌1972年2月に行われ168名が合格しました。

出題範囲の見直しが行われた1979年度とコロナ禍の影響を受けた2020年度を除いて、試験は毎年1回行われています。2022年度からは中堅職員および管理職を対象とした飼育技師（上級）試験を行い、若手職員を対象とした飼育技師（一般）試験とに分けて実施しています。飼育技師（一般）試験は、日動水加盟の動物園水族館において2年以上飼育に関する実務経験があること、飼育技師（上級）試験は、飼育技師（一般）資格を有し、10年以上の実務経験があることが受験資格です。試験内容は飼育技師（一般）試験では飼育技術者として必要な知識および技能を問うもので、飼育技師（上級）試験では動物園水族館を取り巻く社会情勢を問うものとなっています。

資格認定は公正を保つため日動水会長を委員長とし、外部委員を加えた飼育技師資格認定委員会が合否を判定しています。合格者は日動水飼育技師として登録され、資格証明が与えられます。第1回試験から2023年度に行われた試験までの累計合格者数（2023年現在）は動物飼育でおよそ6,500名、水族飼育でおよそ3,400名、上級でおよそ160名に及びます。

動物園水族館に勤務する職員にとって、日々、飼育技術の向上に取り組むことや、動物園水族館の使命と役割を踏まえてその発展に努めることは言うまでもありません。資格認定試験は自分の知識と経験を見直す絶好の機会となっています。動物園や水族館でアニマルウェルフェアの向上を図ることが飼育管理の基礎になってきました。動物園水族館を取り巻く社会の要望を反映させながら飼育技術を向上させることで動物のQOL（quality of life：生活の質）をより充実させるよう、これからも飼育技師資格認定試験を動物園水族館の職員のスキルアップに役立てていきたいと考えています。